

佳作

## ぼくのお米

徳島県 徳島文理小学校三年 原 遼馬

ぼくは、今年の四月二十九日におじいちゃんのお手つだいをしました。その時に、ぼくのお米として自分の手で植えたいねがありました。

今回は、いねかりのお手つだいをすることになりました。田んぼは、いねが金色をしていて、とてもきれかったです。いねがこうべをたれるとしゅうかくするじきだと、おじいちゃんが教えてくれました。

お父さんとおじいちゃんは、コンバインといういねかりのきかいにのってたくさんしゅうかくしました。

ぼくは、おばあちゃんといっしょにかまを使って手作ぎようでいねかりをしました。ぼくは、かまをもったとき少しこわかったです。

いねの上の部分をもって、かまを少しひいてみる

とぜんぜんきれませんでした。つぎに力を入れて引いてみると、じよりじよりと少し切れました。ぼくはとても力のいるしごとだと思いました。

するとおばあちゃんが、

「むかしは、ぜん部かまで切っていたから何日もかかっていたんだよ。」

と、教えてくれました。ぼくは、こんな広い田んぼをぜんぶ手でかるなんてそうぞうしただけでもたいへんそうだなと思いました。

ぼくが植えたいねをかつてみると、クモやカエルがいました。これは、いねのがい虫を食べてくれるそうです。農薬を使うよりもかんきょうによいということをお父さんが教えてくれました。

かりとられたいねは、水分が多いのでかんそうさせるために大きなきかいの中に入れました。でてきたお米は茶色のお米ぶくろに入れていききました。ぼくが、はこぼうと思ってもってみたけどビクともしませんでした。一ふくろに三十キロのお米が入っていたからです。

そして、せい米をするとお米がまっ白になったのでぼくはびっくりしました。

その日、かりとったお米をたいもらいました。

ひと口食べると、とってもあまくてもちもちして  
てかん動しました。

いつも、おじいちゃんおばあちゃんが大へんなし  
事をしてあげていることが分かりました。またぼく  
もいっしょにお手つだいをしようと思いました。